

瓜生山学園京都造形芸術大学の未来に向けて（2014年9月30日）

2014年度秋季、学校法人瓜生山学園京都造形芸術大学教職員総会、学長所信

京都造形芸術大学学長

尾池和夫

瓜生山学園の新理事長による体制が、勢いよく立ち上がってから、3か月を経過しました。学園の中に、さまざまの新しい息吹が感じられると、皆さん思いませんか？ この後、新理事長の所信をうかがうのを楽しみに、私の話はなるべく簡単に、といいながら、話したいことは、たくさんあります。

白川通りに沿う両側の工事現場からは、新しい学園のキャンパスが見え始めています。学校法人の目標を達成するためには、まず資金が必要であり、学習する人たちがいて、その人たちのための教育の場が確保され、自ら国際的に活躍しながら指導する教員がそろい、その指導者と学生たちとの重要なインターフェイスとなる、優秀な職員が仕事に励んでいることが何よりも重要です。瓜生山学園では、このような観点での、さまざまの整備が急速に進みつつあると、私は思っています。

瓜生山学園は、2016年度に40周年を迎えます。それに向けてのキャンパスの整備、学生の就業力の育成、社会への芸術教育活動の普及と拡大などを目標として、教育改革も実施しています。

教育の質を保ち、教員が教育力を高め、自己点検評価を強化することを進めています。そのような中で、教員の活動モデルを示す尽力をお願いしました。新規採用職員の方たちには、大学で最も大切なのは学生であり、それを意識して仕事をすれば、問題はないと申し上げ、学生に親切的な職員であるということに尽きると話しました。もちろん経験豊かな教職員の皆さんにも、同じことを申し上げることができます。

学校法人は、設立者の教育への強い思いがあって成立します。瓜生山学園は徳山詳直学園長の理念、「京都文藝復興」の理念を理解し、その思いのもとで、教育と研究と社会貢献に従事する教職員の皆さんによって仕事が行われます。多くの卒業生たちが世界で活躍し、この学園の理念を受け継いで行動します。卒業生や教職員の熱意に応えながら、建学の精神を継承し、発展させることが、瓜生山学園にとって極めて重要であります。

学習環境については、引き続き、安全な学習環境を提供するための整備を行い、同時にソフト面の整備をいくつかお願いしました。とくに学生の活躍が、市民に見えるようにしてほしいと思います。例えば、卒業展では見学に来られた方に見えるよう、各賞を作品の横に大きく明示してほしいとお願いしました。瓜生山祭に来られた方が、どの佞武多が賞をもらったのかと聞かれましたが、やはりそれも、見える形にしてほしいと代表教授会でも申し上げました。また、一方で、多様な学生のニーズを把握しながら、1年生、2年生でのクラス担任制度を強化してほしいと、お願いしています。学生は授業料を払って、自分の人生のために、大学に投資しています。さまざまの学生の、その投資に応えることが大学の使命です。

学生の生活環境については、カウンセリング制度の充実、トイレの改善、安全の確保はもちろん、朝食の充実なども課題です。今日の午前中の百科学Ⅱで聞いてみたら、たくさんの学生が朝食を食べてきたという反応で、とてもうれしく思いました。今年は、こころみに朝食券を発行して、学生の皆さんにできるだけ使ってもらえるようにしたいと考え、もろもろの行事での副賞として進呈することを実行しています。秘書室に預けてありますから、ぜひ活用していただきたいと思います。

教職員との対話が大切と考え、私は前期の期間中、学科ごとに訪問させていただき、教職員の方々と話をさせていただきました。その経験を生かしながら、国際交流の推進、東北芸術工科大学との連携、他大学との連携、卒業生との連携などが重要と考え、長期計画を視野において、一つずつ具体的に進めていきたいと思っています。大学としての広報活動の推進もきわめて重要であり、現状の発信だけでなく、研究成果の蓄積、フィールドワークの成果や作品のアーカイブなど、取り組むべき多くの課題があると思います。

また、大学院の充実、研究所、研究センターの研究活動のさらなる充実も大切であり、真の国際化を目ざす方向と密接に関連させながら、具体的に進めて行きたいと思っています。今週、10月4日、台北でのALIAの総会では、私は創造の前に自然があるということ話し、科学の成果を大いに取り入れながら連携することが、芸術の分野に重要であるという話をします。5日の総会では、宣言を採択する予定ですが、そこでは、ALIAは、芸術の実践が人類の平和に大きく寄与するというを強く信じて活動することを宣言する予定です。

繰り返しにはなりますが、瓜生山学園の創設者である徳山詳直現学園長の、「京都文藝復興」の理念のもと、新しい理事長の指導体制で、新しいキャンパス整備の方針が具体化され、その成果が目に見える形で市民の目に触れることを、私たちは目ざします。そのためには、本日、この教職員総会に集まっていた、教職員全員の理解と協力が不可欠であり、それがあってはじめて、学習する人たちの人生に対して、強く影響を与えることができます。それにより、さらに学園の卒業生たちが、また次の世代の人たちをこの学園に導き、さらなる学園の発展の礎となってくれることでしょう。

大いに力を発揮して、この学園の発展に貢献することを、私自身も誓い、皆さんとともに、全力を注ぎたいと思います。皆さん方も、全力を發揮して、学園を盛り立てていただくようお願いして、教職員総会での私の所信表明、および挨拶といたします。

ありがとうございました。